

4月10日のブラックホール記者会見の舞台裏をご紹介します第3回。発表後の反響もものすごいものでした。

高梨直紘(東京大学) / 平松正顕(国立天文台)

「世紀の発表」から半年。筆者(平松)にいただく講演依頼ではまだ「ブラックホールをテーマに」というものが多く、インパクトの大きさを実感しています。

この成果は、テレビ・ネット中継や翌朝以降の新聞にもたくさん載せていただきました。研究チームのメンバーに、ニュースだけでなくワイドショーからも出演依頼が舞い込んだことも、普通の研究成果発表との違いといえるでしょう。もちろんこの現象は日本だけでなく、各国の研究者たちも殺到するメディア対応や講演依頼で多忙を極めたようでした。

ではこれがどれくらいの人に伝わっているか。私は講演のたびにブラックホールの画像を見たか聴衆の皆さんに聞いていて、知っている率はほぼ100%。宇宙の講演を聞きに来ている人たちなので当然かもしれません。欧米の研究者は、発表直後にタクシーに乗ると運転手さんにそれとなく「ブラックホールの写真

が撮れたらしいね」と世間話を持ち掛け、反応を探っていたそうです。これも認知度ほぼ100%で、どういう方法で撮影しそれがどんなにすごいことかを力説してくれる運転手さんもいたとか。こちらは特に天文学に興味を持っている人たちに聞いたものではないので、世間一般の認知度は大変高いと推測できます。

報道だけでなく、より生活に近いところでブラックホールがテーマになることも増えました。研究チームのおひざ元、国立天文台水沢VLBI観測所(岩手県)には、ブラックホールの顔ハメパネルが登場。発表後の熱も冷めやらぬゴールデンウィークには県外からも観光客が押し寄せ、例年の4倍の来場者を記録。歌手の森高千里さんも岩手でのライブの折に訪れたとかで、これには研究チームもガワザワしていたようです。この他にも、ブラックホール画像のパズルが発売されたり、水沢のお菓子やさんがブラック



国立天文台水沢VLBI観測所に登場した顔ハメパネル。ブラックホールに吸い込まれているのは…。

ホールをテーマにしたお菓子を競作したり、いろんな人がブラックホールの画像をネタにTwitterで遊んだり、やはり浸透具合は普通の観測成果とは比較になりません。

記者会見でワイドショー取材班から出た「一般の人々にどんなプラスがあるか」という質問。後出ししながら、「たくさんの人がブラックホールで楽しめた」というのが回答になるのでしょうか。宇宙でまだまだ楽しめる、そう実感した今回の発表でした。